



EARTH FOOD CREATOR REPORT 2020

日清食品グループ
サステナビリティ報告書

PHILO

人々を食の楽しみや喜びで 満たすために。

創業者・安藤百福が掲げた4つの言葉。

この創業者精神は、日清食品グループの変わることのない価値観です。

しょくそくせへい
食足世平

食が足りてこそ世の中が平和になる

食は人間の命を支える一番大切なもの。文化も芸術も、すべては食が足りてこそ語れるものであり、食のあり様が乱れると争いが起こります。食が足りて初めて、世の中が平和になるのです。私たちの事業は、人間の根源から出発しています。

びけんけんしょく
美健賢食

美しく健康な体は賢い食生活から

空腹を満たし、味覚を満足させるだけでなく、美しい体をつくり健康を維持することも、食品のもつ大切な機能です。美しく健康な体は賢い食生活から。私たちは食の機能性を追求し、賢食を提唱します。

しょくそういせい
食創為世

世の中のために食を創造する

企業にとって最も大切な創造的精神。創造とは、新しい発想と技術によって革新的な製品を生み出す力です。食を創り、世の為につくす。私たちは世の中に新しい食の文化を創造し、人々に幸せと感動を提供します。

しょくいせいしょく
食為聖職

食の仕事は聖職である

食は人々の生命の根源を支える仕事です。食の仕事に携わる者は、人々の健康と世界の平和に貢献していかなければなりません。食の仕事は聖職なのです。私たちは安全で美味しく体にいい食品を世の中に提供していきます。

S O P H Y



創業者

あんどう ももふく

安藤 百福



EARTH FOOD CREATOR

編集方針

本報告書では、日清食品グループが社会の一員として果たすべきCSR(企業の社会的責任)に対する考え方や活動を報告しています。



詳細はウェブサイトをご覧ください
<https://www.nissin.com/jp/about/csr/>

報告対象範囲

日清食品ホールディングス、日清食品、明星食品、日清食品チルド、日清食品冷凍、日清シスコ、日清ヨーク、ぼんちを主な報告範囲としています。環境面や社会面の数値については、その都度、対象範囲を明記しています。



私たち日清食品グループは、
さまざまな「食」の可能性を追求し、
夢のあるおいしさを創造していきます。
さらに、人類を「食」の楽しみや喜びで
満たすことを通じて、社会や地球に貢献します。

「EARTH FOOD CREATOR」は、
単に“地球食を創造する人”という意味だけではなく、
“生物の根本である「食」を創り、世の為につくす”という
大きな願いを込めています。

また、EARTHには土という意味もあります。
土から生まれた穀物は、あらゆる食料の原点です。
日清食品グループは「EARTH＝土」から生まれた商品
「EARTH FOOD」を生みだし、
創り続けていく使命を持っているのです。

CONTENTS

04 トップメッセージ	16 食の安全・安心
06 EARTH FOOD CHALLENGE 2030	18 地域・社会への貢献
10 FEATURE1 カップヌードル DO IT NOW!	21 TOPICS 安藤財団の取り組み
12 FEATURE2 日清食品グループの取り組み (健康志向に応えた製品/食料・災害支援)	22 社員とともに
14 日清食品グループのサステナビリティ	25 TOPICS コンプライアンス
	26 日清食品グループの概要

報告対象期間

2019年度(2019年4月1日～2020年3月31日)
ただし、上記期間以外の活動も一部報告しています。

発行

2020年6月(前回発行2019年6月)

参考ガイドライン

- 環境省発行「環境報告ガイドライン2018年版」
- GRIサステナビリティ・レポーティング・スタンダード
- ISO26000(社会的責任に関する手引き)

免責事項

当報告書は、発行時点での情報に基づいて作成
しています。将来の社会の変化によって実際の成
果や業績は変わる可能性があります。

トップメッセージ



日清食品ホールディングス株式会社
代表取締役社長・CEO

安藤 宏基

持続的成長への挑戦

地球規模の災害の発生

昨今、国内外で災害が多発しています。2019年、日本では台風15号と19号により甚大な被害が発生し、オーストラリアでは大規模な森林火災が生態系に壊滅的な影響を及ぼしました。その後、新型コロナウイルス感染症のパンデミック(世界的大流行)によって、私たちの日常が一変する事態となりました。

気候変動問題への取り組み

日清食品グループの事業は、気候変動やそれに起因する自然災害により、原材料価格の高騰や製造工場の被災など、さまざまな影響を受ける可能性があります。事業を将来にわたって継続し、発展していくためには、省エネルギー対策によって環境負荷の低減を図るとともに、気候変動の影響に適応できる仕組み作りが必要です。

そこで、当社グループの具体的なリスクや機会を特定するため、2019年に気候変動のシナリオ分析に着手しました。さらに2020年4月には、2030年までの環境戦略「EARTH FOOD CHALLENGE 2030(→p6)」を策定し、気候変動に対する取り組みや資源の有効活用に関する目標を定めました。なかでも、CO₂排出量の削減を重要課題と位置付けており、国内外のスコープ1と2※1の合計排出量については、2018年度総量比で30%削減を目指します。

これらの環境目標の達成に向け、私が委員長を務める「サステナビリティ委員会」を新設し、国内外の社員を巻き込みながら、グループ一丸となって全力で取り組んでいく決意です。

環境・社会課題を解決する製品開発

インスタントラーメンは、もともとライフサイクルにおけるCO₂排出量が極めて少ない製品ですが、さらに環境負荷を低減するため、「カップヌードル」ブランドの製品で使用する容器に植物由来のバイオマスプラスチックを使用した「バイオマスECOカップ」を採用し、2019年から切り替えを開始しました。

また、原材料の持続可能性に配慮した調達を強化するため、2017年10月より「RSPO(持続可能なパーム油のための円卓会議)」に加盟し、2019年度には、「カップヌードル」を製造する国内全工場でRSPO認証油の調達を開始しました。

一方、家畜の生産段階における環境負荷の低減を図ることができる植物代替肉や培養肉の研究開発も推進しています。将来は動物由来の原材料を一切使用しないビーガン対応の「カップヌードル」も必要とされるでしょう。

これからも環境や社会の課題に向き合う製品の開発を続けることで、消費者の期待に応えてまいります。

EARTH FOOD CREATORとして

当社グループの企業理念である「EARTH FOOD CREATOR」には、「人類を食の楽しみや喜びで満たすことを通じて社会や地球に貢献する」という意味を込めています。インスタントラーメンのパイオニア企業として、人々に安全でおいしい食を提供することはもちろん、環境・社会課題を解決する製品の開発を推進していくことが我々の使命であり、こうした企業活動、すなわちCSV※2経営を通じて、「持続可能な開発目標(SDGs)」の達成にも貢献していくことが重要であると考えています。

※1 スコープ1は、主に自社での化石燃料の使用によって排出される温室効果ガス(直接排出)。スコープ2は、主に自社が購入した電気や蒸気の使用によって排出される温室効果ガス(間接排出)。

※2 Creating Shared Value: 共通価値の創造



日清食品グループの環境戦略

EARTH FOOD CHALLENGE 2030

地球のために。未来のために。



日清食品グループの決意

日清食品グループの環境戦略「EARTH FOOD CHALLENGE 2030」を2020年4月に策定しました。

「地球資源を取り巻く環境の保護および資源の有効活用に挑戦する“EARTH MATERIAL CHALLENGE”」と、「事業活動全般におけるCO₂排出量削減に挑戦する“GREEN FOOD CHALLENGE”」の2つを柱とし、持続可能な社会の実現と企業価値の向上を目指してさまざまな取り組みを進めます。



SBTイニシアチブの認定を取得

「EARTH FOOD CHALLENGE 2030」では、「気候変動問題への対策」を最重要課題の1つに位置付け、2030年度までに2018年度比でグループ全体のScope 1^{※1}とScope 2^{※2}の合計を30%、Scope 3^{※3}については15%削減する目標を掲げています。この削減目標は、「Science Based Targets(SBT)イニシアチブ」によって、「パリ協定^{※4}と整合し、世界の平均気温の上昇を産業革命前に比べ2°Cを十分に下回る水準に抑える、科学的根拠に基づいた目標である」と認定されました。

この目標達成に向け、省エネルギーの推進や再生可能エネルギー使用比率の向上などに取り組んでいます。

削減目標値



- ※1 Scope 1 : 主に自社での化石燃料の使用によって排出される温室効果ガス(直接排出)
- ※2 Scope 2 : 主に自社が購入した電気や蒸気の使用によって排出される温室効果ガス(間接排出)
- ※3 Scope 3 : 主に自社のバリューチェーン(原料調達、輸送、廃棄など)で排出される温室効果ガス(Scope 1、2除く)
- ※4 2015年パリで開催された「国連気候変動枠組条約締約国会議(COP21)」で採択された、温室効果ガス排出削減に関する多国間協定



2019年度の環境数値 (前年度比)

CO ₂ 排出量 ^{※1}	廃棄物量 ^{※2}	水使用量 ^{※2}	物流によるCO ₂ 排出量 ^{※3}
42万t-CO ₂ (101%)	83千t(105%)	546万m ³ (102%)	3.9万t-CO ₂ (105%)

対象: ※1 国内外の製造工場、日清食品ホールディングス(東京本社・大阪本社・the WAVE)、明星食品研究所 ※2 国内外の製造工場 ※3 国内の製品物流

EARTH MATERIAL CHALLENGE

地球資源を取り巻く環境保護および資源の有効活用に挑戦

地球にやさしい調達

森林破壊の防止、生物多様性の保全、および農園労働者の人権に配慮された持続可能なパーム油の調達を進めます。2020年3月現在、グループ全体における「RSPO(持続可能なパーム油のための円卓会議)」認証パーム油の調達比率は約20%です。2030年度には、RSPO認証パーム油の調達に加え、独自アセスメントにより持続可能であると判断できるパーム油のみを調達することを目指します。

パーム油目標値
持続可能なパーム油
調達比率

100%

ごみの無い地球

日本国内における製造過程の廃棄物再資源化率99.5%、販売・流通過程での廃棄物総量50%削減を目指します。日清食品グループでは、製造時に発生する廃棄物を再資源化しており、現在の再資源化率は99.5%です。今後も、この比率を維持するとともに、流通・販売段階で発生する廃棄物の総量を半減することに挑戦します。

廃棄物目標値

(対象:国内の事業所)

再資源化率
99.5%

販売・流通
廃棄物総量
50%減
(2015年度比)

地球資源の節約

水目標値

12.3m³
/百万円(IFRSベース売上高)

グループ全体で、売上高百万円(IFRSベース)あたりの水使用量12.3m³を目指します。製品の製造工程に必要な水使用量を削減することに加え、冷却に使用した水を設備の清掃に利用するといった、水の再利用に取り組みます。

GREEN FOOD CHALLENGE

事業活動全般におけるCO₂排出量削減に挑戦



CO₂目標値

Scope 1+2

30%削減

(2018年度比)

Scope 3

15%削減

(2018年度比)

グリーンな 電力で作る

食べ終わった後の油污れなどが付いたインスタントラーメンの容器はリサイクルが困難なことから、一般的には可燃ごみとして焼却処理されています。そこで、焼却に伴うエネルギーを用いた「ごみ発電電力」を使用することで、資源の有効活用につなげていきます。2020年3月から、日清食品ホールディングス東京本社で使用する電力の50%を「ごみ発電電力」にしました。また、工場での省エネ活動や、太陽光パネルなどで発電された再生可能エネルギーの調達を推進します。

グリーンな 食材で作る

大豆たんぱくを主原料とした独自開発の大豆ミートなど、環境負荷の高い畜産業由来の食材の代わりとなる植物代替肉の活用を進めます。また、動物の個体からではなく、細胞を体外で組織培養することで得られる「培養肉」の研究も続けていきます。



BIOMASS
ECO
CUP

「カップヌードル」ブランドの製品で使用する容器を、「バイオマスECOカップ」に切り替えます。これは、バイオマス度80%以上を実現した環境配慮型容器で、従来の「ECOカップ」に比べて1カップあたりの石化由来プラスチックを従来比約50%削減、ライフサイクル全体で排出するCO₂を16%削減します。2019年12月から切り替えを開始しており、2021年度中には全量の切り替えが完了する予定です。

グリーンな 包材で届ける

FEATURE 1

地球と人の未来のために、すぐやろう。

DO IT NOW!

～今すべきこと、今できることに

すぐに取り組むプロジェクト～



持続可能なパーム油の調達

日清食品グループでは、持続可能なパーム油の調達を進めています。2019年度には、「カップヌードル」を製造する国内全工場場でRSPO認証油の調達を開始し、2020年2月から「カップヌードル」のパッケージにRSPO認証マークを付与しています。



4-0968-17-100-00

「バイオマスECOカップ」の使用

「カップヌードル」をはじめとする縦型の容器に再生資源である紙を使用しています（「ECOカップ」）。

2019年12月からは、さらに環境負荷の少ない「バイオマスECOカップ」の使用を開始しました。このカップは、従来の「ECOカップ」が持つ断熱性や保香性を維持しながら、石化由来のプラスチックを植物由来のバイオマスプラスチックに一部置き換えた容器で、バイオマス度は81%です。「ECOカップ」に比べて石化由来プラスチック使用量がほぼ半減し、ライフサイクルで排出されるCO₂量を約16%削減しています。2021年度中には「カップヌードル」ブランドの容器全てが切り替わる予定です。



※カップヌードル容器に使用

塩分30%オフの実現

通常の「カップヌードル」に比べ30%の減塩を実現した「カップヌードル ソルトオフ」を2019年9月に発売しました。味わいと食べ応えはそのまま、健康や塩分に気を配る人にも気がねなく食べられる製品です。



防災備蓄セットの発売

「カップヌードル ローリングストックセット」を2019年9月に発売しました。3日分（9食）の食料とカセットコンロ、水、ソーラーライトなどが入ったセットです。サブスクリプションサービスにより、3カ月ごとに自動的に入れ替え用の製品をお届けするため、賞味期限を気にしたり買い替えたりする必要がなく、日常的に消費しながら常に一定量の食品を備蓄していただくことが可能です。



1971年に誕生した世界初のカップ麺「カップヌードル」は、2021年に発売50周年を迎えるインスタントラーメンのNo.1ブランドです。この「カップヌードル」を通して、おいしさだけでなく、「環境」「防災」「健康」「教育」「文化」などあらゆる課題に向き合い、地球と人の未来のためにできることを今すぐに取り組む「DO IT NOW!」プロジェクトをスタートしました。これからも「カップヌードル」は社会環境や消費者意識の変化に対応しながら、常に進化を続けていきます。

日清食品ホールディングス株式会社 代表取締役副社長・COO 安藤 徳隆
日清食品株式会社 代表取締役社長



FEATURE 2

日清食品グループの取り組み

食品メーカーとしてできることを追求

健康志向に応えた製品

人生100年時代に向けてますます人々の健康志向が高まる中、日清食品グループは糖質オフや減塩、栄養補強など、さまざまなニーズに応える製品を開発しています。

糖質オフ



日清食品
カップヌードル
コッテリーナイス
糖質・脂質ともに50%オフ※、
カロリーは176kcal
※「カップヌードル」と比較



明星食品
低糖質麺
ローカーボNOODLES
糖質20g以下、1日の摂取目標
量の2/3の食物繊維※を含有
※厚生労働省「日本人の食事摂取
基準」(2015年版)より抜粋



日清食品
日清のどん兵衛
きつねうどん ソルトオフ
塩分30%オフ※
※「日清のどん兵衛 きつねうどん」と比較



明星食品
評判屋シリーズ
塩分25~30%オフ※
※従来品、明星食品の他の製品、
または日本食品標準成分表2015
年版(七訂)より、中華スタイル
即席カップ麺(油揚げ 焼きそば)
との比較(100gあたり)



日清ヨーク
十勝のむヨーグルト
糖質off
糖質55%オフ、カロリー45%オフ※
※「十勝のむヨーグルトプレーン」と比較



日清シスコ
ごろっとグラノーラ
3種のまるごと大豆
糖質60%オフ
糖質60%オフ※、
食物繊維11.6g(1食分あたり)
※「ごろっとグラノーラ 3種のまるごと大豆」と比較

中性脂肪低減



日清ヨーク
ピルクルBodycare
中性脂肪を減らすことが
報告されている食物繊維
“イヌリン”を配合した
機能性表示食品

畜肉系原料不使用



米国日清
CUP NOODLES
Stir Fry
Sweet Chili
畜肉系の原料を
使用していないため、
ベジタリアンにも安心の
カップ麺

完全栄養食



日清食品
All-in PASTA
1日に必要な全ての
栄養※の1/3量以上を配合
※厚生労働省
「日本人の食事摂取
基準(2015年度版)」
より抜粋

食料・災害支援

日清食品グループは、国内外で発生した自然災害への支援策として、インスタントラーメンを提供するほか、東北の復興を応援する製品作りを行っています。

国際支援

世界中の被災地に インスタントラーメンを提供

自然災害などの有事の際には、WINA(世界ラーメン協会)を通じて被災地にインスタントラーメンを贈る食料支援をしています。WINAは2008年5月から2020年3月までに62社の会員企業と共同で661万食のインスタントラーメンを提供しています。

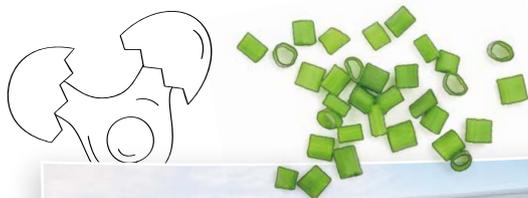
国連WFP協会の飢餓撲滅活動を支援

日清食品グループは、代表取締役社長・CEO安藤宏基が会長を務める国連WFP協会を支援しています。国連WFP[※]は、飢餓と貧困をなくすことを使命として、災害や紛争時の緊急支援や学校給食の提供などを行っています。

※国連WFPは、国連機関 WFP 国連世界食糧計画と、それを支援する認定NPO法人 国連WFP協会の総称です。



2019年度寄付額 約3,700万円
累計金額 約3億5,000万円



東北の復興を応援する製品を販売

明星食品は、東日本大震災発災以降、東北の復興を支援する製品作りを続けています。2013年からは東北の名店の味を再現した製品を販売しており、売り上げの一部を自治体の復興基金に寄付しています。

被災地支援

キッチンカーによる被災地支援

日清食品グループは、イベント会場や量販店でインスタントラーメンを試食できるように給湯機能を備えたキッチンカーを所有しています。日本各地で地震などの自然災害が発生した際には、キッチンカーを被災地へ派遣し、温かいラーメンを提供しています。



明星食品
大船渡秋刀魚だし黒船
さんまだし香る
醤油ラーメン
(2020年2月発売)

持続可能な未来を目指して

4つのテーマを 重点的に展開

日清食品グループの サステナビリティ推進体制

食を創り出す企業で構成される日清食品グループにとって大前提となるのは、安全管理体制を築き、安心して食べていただける製品をお客さまに届けることです。また、当社グループの事業と持続可能な環境・社会の両立に向けて、事業活動が生み出す環境・社会への負荷を低減するとともに、良い影響はさらに増幅させていくことも必要です。

そこで、当社グループは2020年4月に代表取締役社長・CEOを委員長とする「サステナビリティ委員会」を設立し、その傘下に5つのワーキンググループを設けました。委員会の事務局は、経営企画部、環境推進部、広報部CSR推進室が担い、各ワーキンググループには関係部署が参画しています。

「サステナビリティ委員会」傘下の ワーキンググループ

- ①環境 ②人権 ③広報・社員教育
- ④海外事業会社 ⑤ESG課題分析

事業を通じた 環境・社会課題の解決

日清食品グループは、国連グローバル・コンパクトに署名し、国連グローバル・コンパクトが提唱する人権、労働、環境、腐敗防止の4分野10原則の実現に向けた取り組みを進めています。

また、2030年までに世界が達成すべき17の目標と169のターゲットからなる持続可能な開発目標(SDGs)に貢献する取り組みも進めています。特に、目標2の「飢餓をゼロに」に対しては、食をお届けする企業として製品を通じて寄与しています。



WEB 詳細はウェブサイトをご覧ください
<https://www.nissin.com/jp/about/csr/>



環境保全 P.06

- EARTH FOOD CHALLENGE 2030
- 地球資源を取り巻く環境保護および資源の有効活用
- 事業活動全般におけるCO₂排出量を削減



食の安全・安心 P.16

- 独自の品質保証体制を確立
- わかりやすい表示を徹底
- お客様のご意見をもとに製品・サービスを改善



地域・社会への貢献 P.18, 13

- ひやくふくし「百福士プロジェクト」を展開
- 子どもたちの健やかな成長を支援
- 安藤財団の取り組み



社員とともに P.22

- ダイバーシティ&インクルージョンを推進
- 社員の健康増進
- 社員の能力開発を支援
- コンプライアンス
- 労働災害の防止
- 働きやすい職場を追求

食の安全・安心

日清食品グループは、人々の安全を最優先とした製品・サービスの開発はもちろん、その品質に起因する問題を誠実かつ迅速に解決するため、独自の品質保証体制を確立しています。



独自の品質保証体制を確立

日清食品グループの各工場では、日常的な品質管理に加え、独自の食品安全監査基準に基づいた定期的な内部監査と、そこから抽出された課題の継続的な改善に取り組んでいます。加えて、グローバル食品安全研究所(以下、研究所)での原材料や製品を分析・検査する二重の管理体制をとっています。また、海外のグループ会社の全工場においても、国内と同様の品質管理体制の構築を進めています。

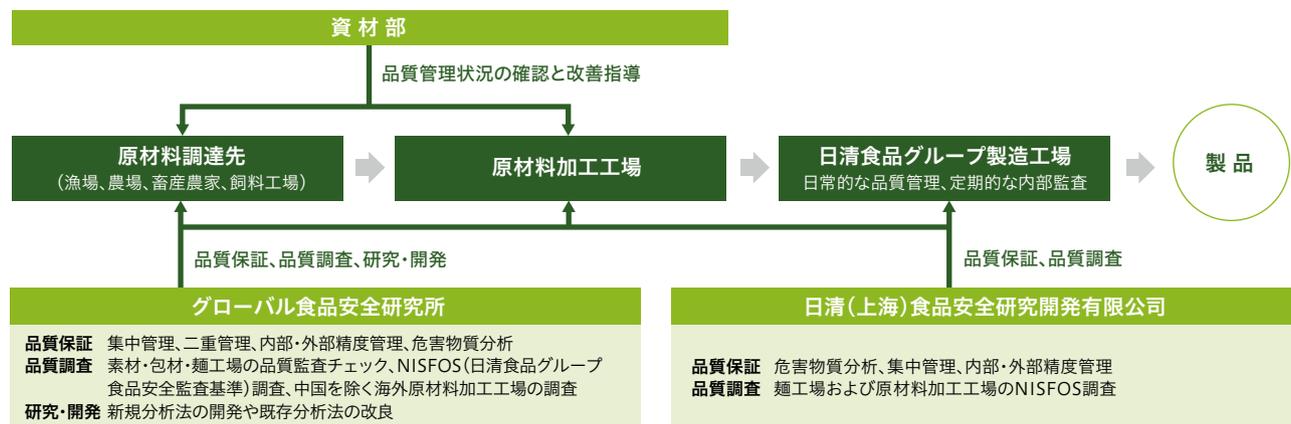
研究所では原材料、原材料の加工、最終製品の生産までの各段階で品質調査を実施するとともに、お客さまからのご指摘(異物、異味、異臭)を科学的に検証。さらに、原材料に対して農薬や動物用医薬品、重金属などの危害物質や放射性物質を分析するほか、遺伝子組み換え農産物やアレル

ギー物質のコンタミネーションの有無、最終製品の栄養成分などを確認。また、分析の迅速化や新たな危害物質の検出のため、分析方法や装置を独自開発しています。

工場で製品に問題が発生した場合には、工場に設置した品質管理カメラによる映像やX線の検査画像記録などから製品の製造時間を追跡し、24時間以内に原因究明できる体制を整備しています。

また、工場での異物混入を防ぐために社員への衛生管理を徹底しているほか、原材料の受け入れ段階からふるいや風力、磁力などを用いた選別機、X線検査機などを導入。出荷前には、微生物検査やフライ油の酸価・過酸化価検査、外観検査、重量検査を実施して製品の安全確保に努めています。

品質保証体制図



対象地域：日本、海外(中国を除く)

対象地域：中国

わかりやすい表示を徹底

食品衛生法によって食物アレルギーとして特定された原材料には、表示義務のある特定原材料7品目と、表示が推奨されている特定原材料に準ずるもの21品目の合計28品目があります。日清食品グループのウェブサイトでは、製品ごとに28品目全てのアレルギー物質情報を掲載しており、アレルギー物質を「含む」「含まない」の検索もできるようになっています。また、アレルギー物質の使用品目が少ない日清ヨークの「りんご乳酸菌 65ml×10」では、含まれるアレルギー物質のみをパッケージにイラストでわかりやすく表示しています。

人間の色覚には個人差があり、文字色、色の組み合わせ、明暗で文字が見えにくいことがあるため、日清食品グループは、製品の原材料の表示欄や調理方法などの配置や文字・色を見やすくするユニバーサルデザイン(UD)の考え方を取り入れています。

アレルギー物質の表示例



りんご乳酸菌 65ml×10 の表示

WEB アレルギー検索
<https://www.nissin.com/jp/products/allergens/>

UDの考え方を取り入れた表示例



お客さまのご意見をもとに製品・サービスを改善

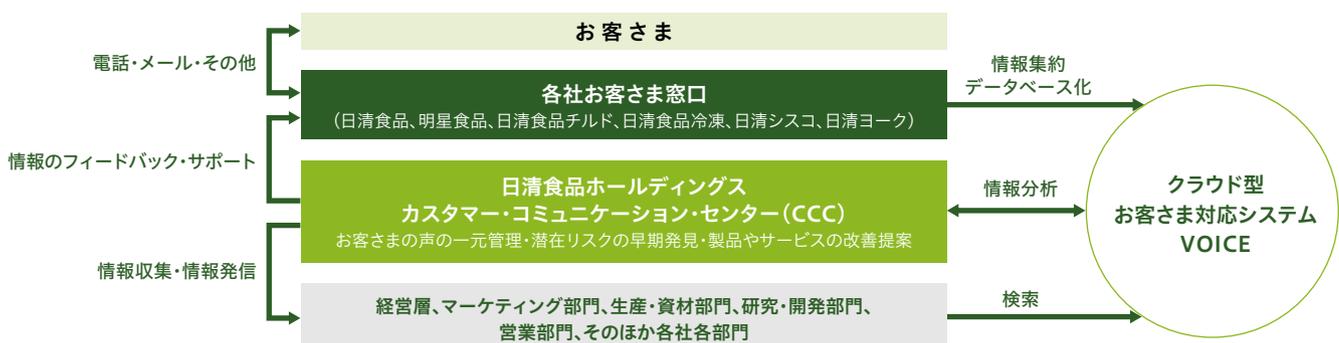
日清食品グループ6社(日清食品、明星食品、日清食品チルド、日清食品冷凍、日清シスコ、日清ヨーク)に寄せられたお客さまの声は、日清食品ホールディングスのカスタマー・コミュニケーション・センター(CCC)が収集・分析し、経営層および関連部署に速やかに情報共有されています。

また、これらの声はクラウド型お客さま対応システム「VOICE」に集約し、その情報は各社・各部門で検索され、製品やサービスの改善に活かされています。さらに、CCCは

日清食品、日清食品チルド、日清食品冷凍のマーケティング部をはじめ、生産部、資材部、研究所を対象に「VOC (Voice Of Customer) 会議」を毎月開催しています。ここでは、お客さまの声を分類ごとに整理してメンバー間で共有し、該当部門に改善提案をするとともに、その改善状況を確認しています。

2019年度は、CCCによる改善提案の中から35件が製品に反映されました。

お客さま対応体制



地域・社会への貢献



日清食品グループは、「^{ひやくふくし}百福士プロジェクト」と、子どもへの支援や製品を活かした災害支援(p13)をはじめとした地域・社会への貢献活動に取り組んでいます。

^{ひやくふくし}「百福士プロジェクト」を展開

日清食品グループは創業50周年を迎えた2008年から「百福士プロジェクト」を実施しています。これは社会貢献活動に情熱を注いだ創業者・^{あんどうももふく}安藤百福の志を継ぎ、50年間に100の社会貢献活動を行うものです。5つの活動テーマ「創造」「食」「地球」「健康」「子どもたち」を掲げており、いずれも安藤百福の創業者精神と、安藤スポーツ・食文化振興財団の設立理念を反映しています。

2019年度は、災害備蓄やプラスチック廃棄物問題を社内外に啓発する活動に取り組みました。

第26弾

みんなで考えよう、プラスチックのこと！ 日清“プラ育”プロジェクト

このプロジェクトは、一般の方と日清食品グループ社員を対象に、プラスチック廃棄物問題への意識を深めてもらうための啓発活動です。

一般の方に向けては、2020年2月に「カップヌードルミュージアム 横浜」でワークショップを開催。当日は、横浜市資源循環局からプラスチックをとりまく問題や普段の生活でできる対策をわかりやすく紹介していただきました。その後、箕面市認定NPOヴィークラフト(大阪府)の指導のもと、参加者は「チキンラーメン」の包装フィルムを使用したオリジナルポーチ作りを体験しました。2日間で合計113組(226名)の親子が参加しました。



また、2019年2月に日清食品グループの社員112名が受講した社員向けの講演会では、環境省環境再生資源循環局とNPO法人開発教育協会から、世界各国のプラスチック廃棄物問題の現状と規制動向を紹介していただきました。



第25弾

もしものときに、いつものおいしさを
災害備蓄・ローリングストックーズ

このプロジェクトは、日常的に消費しながら使った分だけ買い足していく備蓄方法「ローリングストック」の認知向上を図り、実践を促すための啓発活動です。「ローリングストック」は、地震や豪雨などの大規模な自然災害が発生している中、いざという時でも日常生活に近い食生活を送ることができる方法として注目されています。

ローリングストックを実践し、周囲にも実践を促す人々を「ローリングストックーズ」と名付け、日清食品グループの役員および社員約400名が「ローリングストックーズ」の一員として、2019年8月から11月にかけて、全国各地のイベントやスーパーなどでオリジナルリーフレットの配布などの啓発活動を行いました。

こうした取り組みが評価され日清食品ホールディングスは、「第6回 ジャパン・レジリエンス・アワード」の企業・産業部門において「最優秀賞」を受賞しました。



これまでに実施した百福士プロジェクト

	期間	プロジェクト名
第1弾	2008年2月～ 2013年1月	アフリカ事業化自立支援 Oishii(おいしい)プロジェクト
第2弾	2008年10月～ 2017年8月	自然体験活動指導者養成 あやしいオヤジを、正しいオヤジに変える！ プロジェクト
第3弾	2008年8月	防災備蓄食支援 もしもの時のチキンラーメン・カンプロジェクト
第4弾	2010年3月～ 2014年3月	インスタントラーメンのお湯でもSTOP温暖化 お湯と生きるプロジェクト
第5弾	2010年3月～ 2012年11月	社員大ボランティア支援プログラム 社員の大ボラ応援します！プロジェクト
第6弾	2010年9月～ 2013年3月	駅伝日本一が、おいしい走りかた教えます。 走食系チルドレン育成プロジェクト
第7弾	2011年7月～ 2013年4月	つくって学ぶ、食のおいしさ、たのしさ、ありがたさ。 児童、厨房に入るべし！プロジェクト
第8弾	2012年5月～ 2013年3月	子どもたちに、ひらめくチカラを。 東北の未来を発明しようプロジェクト
第9弾	2012年8月	3分でできるおいしさを3年間保ちます チキンラーメン&カップヌードル 保存缶プロジェクト
第10弾	2012年10月～ 2013年3月	お父さんと子どもがチームでチャレンジ！ 全日本育種(イクメン)メニューコンテスト
第11弾	2013年9月～ 2015年2月	子どもたちの夢、応援します。 東北の未来へ RUN RUN! プロジェクト
第12弾	2014年 5月～7月	自分を守り、人を助ける もしもの時の日清メン養成プロジェクト

	期間	プロジェクト名
第13弾	2015年 4月～9月	社員のダイエットが食糧支援に めざせ1トン減量！プロジェクト
第14弾	2015年 10月～11月	子どもの異文化理解を促進し、スポーツの大切さを伝授 日清スピードランニングプロジェクト
第15弾	2016年 4月～9月	～月まで毎日9,000歩～ 日清月歩 チャリティーWALKプロジェクト
第16弾	2016年11月	シールをめくって子どもたちに学校給食を届けよう！ めくって届ける。命のシールプロジェクト
第17弾	2016年12月～ 2017年4月	セブンスミットを踏破して飢餓・貧困を撲滅！ 快★段★セブンスミット踏破プロジェクト
第18弾	2017年 1月～12月	「間伐」して「箸」をつくって日本の森林を守っていこう！ Fantastic-Chopsticks!! 森林保全プロジェクト
第19弾	2017年11月～ 2019年3月	みんなで作ろう！昆虫100種大図鑑 小諸絶滅危惧種ビオトーププロジェクト
第20弾	2018年1月	世界にひとつ！縄文DOKI★DOKI!! 土器づくり体験プロジェクト
第21弾	2017年12月～ 2018年7月	ねたろう 六十年養太郎プロジェクト
第22弾	2018年6月	はたら着かた改革 NISSIN BAZAAR
第23弾	2018年 9月～10月	備えて安心！ チキンラーメンサバイバル術プロジェクト
第24弾	2018年10月～ 2019年3月	日清EARTH FOOD WALKERプロジェクト



子どもたちの健やかな成長を支援

日本子どもへの支援

日清食品グループは、NPO団体への支援などを通じて子どもの貧困対策に取り組む「子供の未来応援基金」(事務局:内閣府、文部科学省、厚生労働省、独立行政法人福祉医療機構)を支援しています。2016年度からの累計寄付額は205万8,000円となりました。

また、日清食品はベルマークを付けた製品を販売しています。マークに付いている点数は、1点を1円として換算し、学校に必要な教材の備品の購入金として使用されます。2019年度の集票点数は1,324万2,060点でした。

■ベルマークが付いた製品

「チキンラーメン」「チキンラーメンMini」「チキンラーメンどんぶり」「出前一丁」「日清焼そば」「日清焼そば大盛り1.5倍」「日清焼そばU.F.O」「日清ラ王袋麺 5食パック」「日清のラーメン屋さん」

途上国子どもへの給食支援

日清食品と日清食品冷凍は、途上国の学校に給食を提供する「国連WFPレッドカップキャンペーン」に参加し、対象製品の売り上げの一部を寄付しています。2012年度からの累計金額は約2億5,000万円となりました。



食育

日清食品は、小学生を対象にした「チキンラーメン Oishiiしょくいくスクール」を全国各地で開催しています。

実際に小麦粉をこね、麺をのびし、蒸した後に味付けする工程を体験してもらいながら、世界初のインスタントラーメン「チキンラーメン」がどのように作られているのかを紹介しています。また、栄養バランスのとれた食事の大切さについても紹介しています。

2019年度は、全国10カ所で20回実施し、448人の親子(2008年から累計で12,629人)が参加しました。



■ スポーツ支援

安藤財団は、2013年から公益財団法人日本テニス協会主催の男子ジュニア育成プログラムを後援しています。

また、2015年からは日本陸上競技連盟と協力し、国際大会でメダル獲得を志す若手アスリートの海外挑戦を応援する「安藤財団グローバルチャレンジプロジェクト」を行っています。



■ 体験型食育ミュージアム

発明・発見の大切さを伝え、安藤百福の「クリエイティブシンキング＝創造的思考」を楽しく学ぶことができる体験型食育ミュージアム「カップヌードルミュージアム」(正式名称:安藤百福発明記念館)を、大阪府池田市と神奈川県横浜市で運営しています。インスタントラーメンの発明や発展に関する展示や、小麦粉をこねて麺を作るところから体験できる「チキンラーメンファクトリー」、スープや具材を選び世界で一つだけのオリジナルカップヌードルを作る「マイカップヌードルファクトリー」などが体験できます。

2019年度の来館者数は、大阪池田89万人(1999年開館からの累計996万人)、横浜100万人(2011年開館からの累計898万人)でした。



■ 自然に親しむ機会の創造

「安藤百福記念 自然体験活動指導者養成センター(略称:安藤百福センター)」は、子どもたちの自然体験を推進する人材の育成やアウトドア活動の普及を目的として、2010年5月に長野県小諸市に設立した施設です。

敷地内の森には、著名なデザイナーや建築家がデザインしたツリーハウス7棟を展示し、自然とアートが共鳴する空間を創り出しています。この森を会場に、野外イベント「小諸ツリーハウスプロジェクト」を毎年開催。2019年11月のイベントでは、火おこしやツリークライミングなどのアウトドア体験、自然の素材を使ったアートワーク体験のほか、地元の食材を使った料理の提供や野外ライブなどを実施し、2,000人以上の来場者を迎えました。



 小諸ツリーハウスプロジェクト
<https://www.momofukucenter.jp/treehouse/>

※安藤財団(正式名称:安藤スポーツ・食文化振興財団)

創業者・安藤百福が私財を提供して1983年に設立した公益財団法人です。「食とスポーツは健康を支える両輪である」という理念のもと、陸上競技支援、自然体験活動の普及に取り組んでいるほか、発明記念館の運営、新しい食品の創造につながる研究、開発を奨励する表彰事業を実施しています。日清食品グループは安藤財団の理念に賛同し、その活動を積極的に支援しています。

 安藤財団
<http://www.ando-zaidan.jp/>

社員とともに

日清食品グループは、全ての社員が持てる能力を存分に発揮できるよう、働きやすい職場環境作りやダイバーシティ&インクルージョンの推進、社員教育の拡充、社員の健康増進などに取り組んでいます。



ダイバーシティ&インクルージョンを推進

日清食品グループは、基本的人権を尊重し、性別、年齢、国籍、障がいの有無、性自認、性的志向、キャリアなど、多様な属性や価値観を持つ社員が活躍できる職場を目指しています。また、人材の採用時や採用後の昇進・昇格についても、公平・公正に対応しています。

多様な社員を受け入れ、個々の能力を存分に発揮できる職場環境の実現に向け、人事部専任者と有志メンバーによる「ダイバーシティ委員会」を設け、社内セミナーの開催をはじめとした各種施策を実施しています。2019年度は、多様性を活かした組織づくりの阻害要因となりえる「アンコンシャスバイアス(無意識の偏見)」の概念を学び、その対処方法を議論する研修を全役員・管理職向けに開催しました。

また、女性の活躍推進に向け、働きやすい就業制度や女性向け研修を充実させているほか、仕事と育児の両立を支援する環境整備にも取り組んでいます。例えば、育児休業中の女性社員には、能力開発施策としてeラーニングや社

外研修の受講を推奨するとともに、復職時には不安解消のための面談を実施しています。これらの施策やテレワーク制度、コアタイムのないフレックスタイム制度の活用などが評価され、女性活躍推進に優れた企業として「準なでしこ※1」に2019年、2020年と連続して選

定されました。なお、子育てサポート企業として厚生労働省から「プラチナくるみん」の認定を受けています。

障がい者の雇用を促進するために2013年に設立した特例子会社「日清食品ビジネスサポートプラス」は、2020年3月末現在、32名の障がい者が就労しています。業務内容は、日清食品グループ各社のビルメンテナンス(清掃)やオフィスサポート(郵便物の仕分けやデリバリー)などの業務のほか、名刺や製品サンプル作成などの業務を担っています。

※1 経済産業省と東京証券取引所が共同で選定する「なでしこ銘柄」の次点として、業種の枠数なく選定される銘柄



目標と実績

- 新卒採用(総合職)における女性採用比率
2020年度までに25%以上(2019年度25%)
- 女性管理職比率
2020年度までに8%以上(2019年度5%)
- こども休暇取得率※2
2019年度までに70%以上(2019年度70%)

※2 子育てを目的とした男性社員向け休暇

働きやすい職場を追求

日清食品ホールディングスと日清食品、日清食品チルド、日清食品冷凍は、2017年度から働き方改革の一環として「スマートワーク2000」を実施しています。

これは社員のワーク・ライフ・バランスの充実や業務の生産性向上を目的とした取り組みで、一人当たりの年間総労働時間を2,000時間未満にすることを目標に、新たな制度も設けました。また、部門ごとに残業時間と有給休暇取得日数の目標を設定し、達成した部門の社員には報奨金を支給しました。こうした取り組みの結果、2018年度の年間総労働時間は1,985時間、2019年度は1,954時間でした。

また、2018年3月には、社員が効率良く働くことができるよう、個人が集中して業務に取り組むことができる席やいつでも気軽に打ち合わせができるスペースを東京本社に設置しました。こうした取り組みが評価され、日清食品ホー



ルディングスは「2018年度 第31回日経ニューオフィス賞『ニューオフィス推進賞』」を受賞しました。

スマートワーク2000の概要

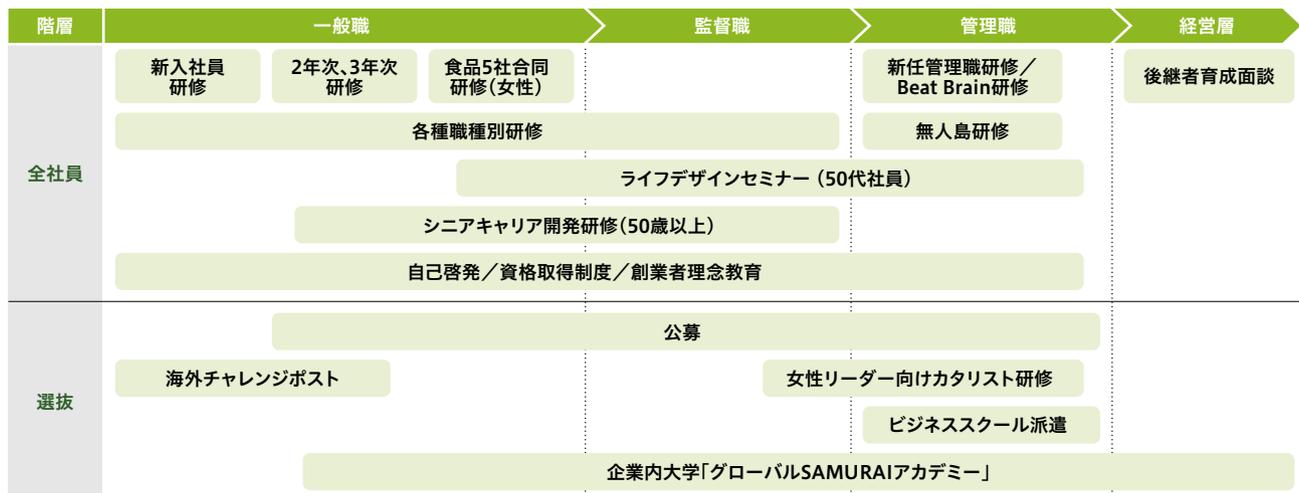
目標	一人当たりの年間総労働時間2,000時間未満
対象	日清食品ホールディングス、日清食品、日清食品チルド、日清食品冷凍に所属する社員
制度	<ul style="list-style-type: none"> ■ 昼休憩を15分拡大することによる所定労働時間の短縮 ■ コアタイムのないフレックスタイム制度 ■ 月10回まで利用可能なテレワーク制度 ■ 有給休暇の半日単位取得制度 ■ 残業時間の削減、有給休暇付与日数の9割消化(工場を除く)の目標を達成した部門の社員への報奨金制度(2019年度実施) ■ 付与された有給休暇を全て消化した場合、特別有給休暇を付与(2019年度は最大7日間)

社員の能力開発を支援

日清食品グループでは、グローバル経営人材の育成・強化を目指し、各種研修に加え、上司と部下が1対1で面談する1on1ミーティングの実施など社員教育の充実化を図っています。

公正な社員評価を目指し、管理職の定期評価には直属上司による評価に加え、所属部門の部下、同僚、業務に関係する社員からの多面評価を採用しています。また、日清食品グループのブランド価値向上に貢献した社員や、社員の育成に熱心なリーダーを表彰しています。

主な人事研修



研修対象社員:日清食品籍の社員(日清食品ホールディングス、日清食品チルド、日清食品冷凍などへ出向している社員も含む)

社員とともに



社員の健康増進

日清食品グループは、全社員が常に健康な状態を維持し、能力を最大限に発揮して業務にあたることを経営上の最重要課題の一つと考え、社員の健康に関するさまざまな対策を実施しています※1。

例えば、法定健診で実施される検査を上回る項目で健康診断を実施するとともに、診断結果を分析し、病気になる可能性が高い社員には保健指導や産業医との面談、病院の紹介を行っています。そのほか、看護師による相談窓口の開設や、健康に関する講演会の開催、仕事の生産性に影響を与える体調不良の要因を特定する「プレゼンティーイズム調査」の実施などに取り組んでいます。

これら一連の対策が評価され、経済産業省と日本健康会議が共同で実施する「健康経営優良法人（ホワイト500）」に2019年、2020年と連続して認定されました。



労働災害の防止

日清食品グループは、労働安全衛生法に則し、社員が安全に安心して働ける職場環境を整備しています。働く場の照度や温湿度、空気や音環境、作業空間などに問題がないかを確認しているほか、社員へのストレスチェックも実施しています。

また、月に一度、事業所ごとに開催する安全衛生委員会では、労働災害の防止策・再発防止策、社員の健康増進などについて労使間で協議しています。加えて、工場では、危険箇所への安全カバーの設置、危険行為を行った場合の設備自動停止、手すりや踏み台の設置、床への防滑処理、導線の明確化、安全標識の設置、社員へのヘルメットや保護メガネ、手袋の着用といった、労働災害の防止に向けたさまざまな対策を取り入れています。

人事・労務データ※1,2

年度※3	社員数(人)			新卒採用者数(うち女性)(人)	新入社員3年未満の離職率(%)	女性管理職比率(%)	再雇用者数(人)	正社員の平均勤続年数(年)(男性/女性)	正社員の離職率(%)	育児休業取得者数(人)(うち男性)	介護休業取得者数(人)	有給休暇消化率※4(%)	障がい者雇用率※5(%)
	合計	正社員(男性/女性)	契約社員(男性/女性)										
2016	2,044	1,855 (1,548/307)	189 (105/84)	52(11)	13.0	2.9	56	12.9 (13.5/9.9)	3.5	33(4)	1	63.3	2.06
2017	2,168	1,983 (1,645/338)	185 (107/78)	61(11)	10.5	3.8	60	12.2 (12.7/9.7)	4.5	32(4)	1	76.8	1.91
2018	2,194	2,027 (1,667/360※6)	167 (99/68)	48(11)	11.5	4.0※6	73	11.9 (12.4/9.6)	3.7	38(2)	1	96.6	2.18
2019	2,266	2,107 (1,710/397)	159 (102/57)	44(11)	23.0	5.2	98	11.4 (11.9/9.2)	4.8	50(4)	0	94.7	2.36

※1 日清食品籍の社員（日清食品ホールディングス、日清食品チルド、日清食品冷凍などへ出向している社員を含む）

※2 日清食品ビジネスサポートプラス籍の社員 ※3 年度末である3月末時点 ※4 対象：非管理職

※5 対象：日清食品籍、日清食品ビジネスサポートプラス、明星食品の従業員 ※6 女性正社員数と女性管理職比率は第三者保証を受けています。

日清食品グループは、企業の社会的責任を自覚し関係法令を遵守するとともに、社会倫理に適合した行動を実践するため、コンプライアンス委員会などの体制を構築しています。

■ コンプライアンス体制

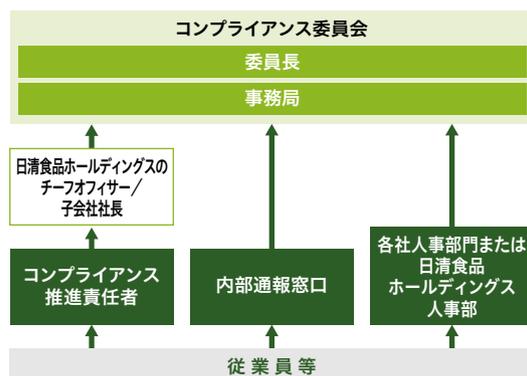
「日清食品グループコンプライアンス規程」に基づき、日清食品ホールディングス主要部署と各グループ会社にコンプライアンス推進責任者を置き、日清食品ホールディングス代表取締役副社長・COOを委員長とする「コンプライアンス委員会」を原則四半期に一度開催しています。

「コンプライアンス委員会」では、内部通報窓口への相談・通報傾向や発生事例の報告、防止策ならびに再発予防策を検討しています。また、各社・各部署に配置されているコンプライアンス推進責任者は、配置先の違反懸念行為の調査、報告を担っているほか、委員会での報告内容の共有や勉強会の開催も行っています。

業務上の法令違反行為などに関しては、日清食品グループで働く役員・顧問・パート社員・派遣社員を含む全ての従業員と退職者が通報、相談できる内部通報制度を設けて

います。利用しやすいよう社内外に合計3つの受付窓口を用意しており、いずれの窓口を利用しても匿名での相談が可能です。また、通報者に対する不利益な取り扱いを禁止しています。この内部通報窓口を周知するため、連絡先を記載した名刺サイズの「コンプライアンスカード」を国内グループ会社の全従業員に配布しています。内部通報窓口への通報件数は2018年度が50件、2019年度が47件でした。

コンプライアンス体制図



■ 教育の徹底

コンプライアンス意識向上のため、国内グループ会社の全従業員には、取引先との関係や情報管理、セクハラ・パワハラなどをはじめ、遵守すべき法令や社会規範をケーススタディー別にまとめた冊子「コンプライアンスブック」を配布しています。



また、国内グループ会社の全従業員を対象にコンプライアンス研修を年に一度実施しています。2019年度は、実例を加えたパワーハラスメント防止研修も実施しました。さらに、新入社員、新任管理職などの各種研修においてもコンプライアンスと内部通報制度について説明しているほか、新任管理職向け研修の中では、部下から相談を受けた際の対処方法も教育しています。

なお、国内グループ会社の社員を対象として年に一度実施している意識調査では、法令および企業倫理の遵守状況を問う質問を設けており、その推移を把握しています。

会社概要

商号	日清食品ホールディングス株式会社
設立	1948年9月
資本金	25,122百万円
本社所在地	東京本社 東京都新宿区新宿6丁目28番1号 大阪本社 大阪府大阪市淀川区西中島4丁目1番1号
ウェブサイト	http://nissin.com

事業内容 持株会社として、グループ全体の経営戦略の策定・推進、グループ経営の監査、その他経営管理など

1. 即席麺の製造および販売
2. チルド食品の製造および販売
3. 冷凍食品の製造および販売
4. 菓子、シリアル食品の製造および販売
5. 乳製品、清涼飲料、チルドデザートなどの製造および販売

コーポレートガバナンス体制

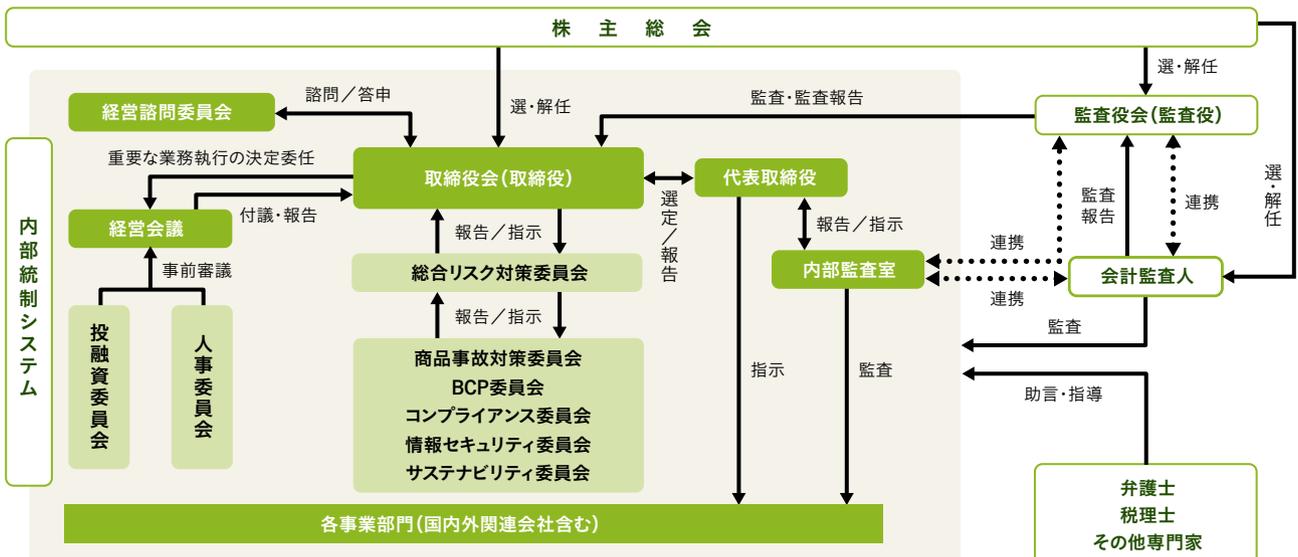
日清食品ホールディングスの取締役会は、過半数を社外取締役とすることで、経営の監督機能の強化および意思決定の迅速化を図っています。2020年3月末現在、取締役は7名、うち4名が社外取締役です。

取締役は定期的開催される「定時取締役会」や、必要に応じて開催される「臨時取締役会」に出席し、法令、定款および取締役会規程に従い、重要事項について審議し、決議しています。加えて、ほかの取締役の業務執行状況の監視を行います。また、取締役会のほか、定期的開催される経営会議（取締役〈社外取締役を除く〉、役付執行役員および常勤監査役で構成）においても、取締役は意思決定に参画し、ほかの取締役の業務執行状況の監督などに努めています。

また、監査役設置会社として、3名の監査役（うち2名が

独立社外監査役）が取締役の職務執行を監視する体制をとっています。さらに、監査役の業務を補助するための専任のスタッフを配置し、監査役と連携を保ち監査効率を高める内部監査室の充実と内部統制システムの強化などを通じて、一層のコーポレートガバナンスの充実に努めています。監査役は、あらかじめ監査役会が定めた監査役監査基準に準拠し、当期の監査方針、監査計画などに従い取締役会などの重要な会議に出席します。そのほか、取締役、執行役員などから職務の執行状況を聴取し、重要な決裁書類などを閲覧し、本社および主要な事業所の往査や取締役会が決議した内部統制システムの状況を監視・検証するなどの監査業務を行っています。

WEB 詳細はウェブサイトをご覧ください
<https://www.nissin.com/jp/ir/governance/corporate-governance/>



グループの関係会社

日本

常温食品および付随する事業

- 日清食品(株)
- 札幌日清(株)
- 日清化成(株)
- 日清エフ・ディ食品(株)
- 香川日清食品(株)
- 日清エンタープライズ(株)
- 味日本(株)
- 明星食品(株)
- 東日本明星(株)
- 西日本明星(株)
- (株)ユニ・スター

低温食品および付随する事業

- 日清食品チルド(株)
- 埼玉日清食品(株)
- 相模フレッシュ(株)
- 日清食品冷凍(株)
- 四国日清食品(株)
- 高松日清食品(株)
- 三重日清食品(株)
- (株)サークルライナーズ
- (株)ニッキーフーズ
- サマキ畜産フーズ(株)

その他の事業

- 日清シスコ(株)
- 日清ヨーク(株)
- 日清食品アセットマネジメント(株)
- 宇治開発興業(株)
- 日清ネットコム(株)
- ぼんち(株)
- (株)湖池屋
- 日清食品ビジネスサポートプラス(株)

- 印は連結子会社
- 印は持分法適用会社
- 印は非連結子会社
- 印は関連会社



欧州地域

- Nissin Foods Kft.
- Nissin Foods GmbH
- MAREVEN FOOD HOLDINGS LIMITED

米州地域

- NISSIN FOODS (U.S.A.) CO., INC.
- NISSIN FOODS DO BRASIL LTDA.
- MYOJO U.S.A., INC.
- NISSIN FOODS DE MEXICO S.A. DE C.V.
- NISSIN TECHNOLOGY ALIMENTOS DO BRASIL LTDA.

ほか1社

アジア地域

- NISSIN FOODS ASIA PTE. LTD.
- INDO NISSIN FOODS PRIVATE LTD.
- Nissin Foods India Ltd.
- NISSIN FOODS VIETNAM CO., LTD.
- NISSIN FOODS THAILAND CO., LTD.
- NISSIN FOODS SINGAPORE PTE. LTD.
- PT. NISSIN FOODS INDONESIA
- THAI PRESIDENT FOODS PUBLIC COMPANY LIMITED
- NISSIN-UNIVERSAL ROBINA CORP.
- NISSIN FOODS MECHANICAL TECHNOLOGY (THAILAND) CO., LTD.
- PREMIER DRIED FOODS CO., LTD.

中国地域

- 日清食品有限公司
- 永南食品有限公司
- 日清食品(中国)投資有限公司
- 廣東順德日清食品有限公司
- 珠海市金海岸永南食品有限公司
- 日清食品(香港)管理有限公司
- 日清食品(香港)有限公司
- 日清湖池屋(中国・香港)有限公司
- 香港東峰有限公司
- 東莞日清包装有限公司
- 福建日清食品有限公司
- 浙江日清食品有限公司
- 香港捷菱有限公司
- 果可美日清食品有限公司
- 珠海日清包装有限公司
- 上海東峰貿易有限公司
- 日清(上海)食品安全研究開發有限公司
- 北京正本廣告有限公司

ほか2社

事業内容

即席麺事業

日清食品・明星食品

世界初のインスタントラーメン「チキンラーメン」や世界初のカップ麺「カップヌードル」、ならびに「日清のどん兵衛」「日清焼そばU.F.O.」「日清ラ王」などのブランドを擁する日清食品と、「明星チャルメラ」「明星中華三昧」「明星一平ちゃん夜店の焼そば」などのロングセラー製品で知られる明星食品の2社が即席麺事業を展開しています。



低温事業

日清食品チルド・日清食品冷凍

チルド食品事業を行う日清食品チルドは、フレッシュな鮮度感と本格的な味を追求した「行列のできる店のラーメン」や「つけ麺の達人」などの製品を製造・販売しています。冷凍食品事業を行う日清食品冷凍は、手軽においしさを堪能できる「冷凍 日清もちっと生パスタ」や「冷凍 日清中華」などの製品を製造・販売しています。



菓子・飲料事業

日清シスコ・日清ヨーク・ぼんち

「ココナッツサブレ」「チョコフレーク」などの菓子のほかに「シスコーン」「ごろっとグラノーラ」などのシリアル製品を製造する日清シスコと、「ぼんち揚」「ピーナツあげ」などの米菓で知られるぼんちが菓子事業を展開しています。

飲料事業では日清ヨークが、乳製品乳酸菌飲料「ピルクル」(特定保健用食品)や「十勝のむヨーグルト」(機能性表示食品)などを製造・販売しています。



海外事業

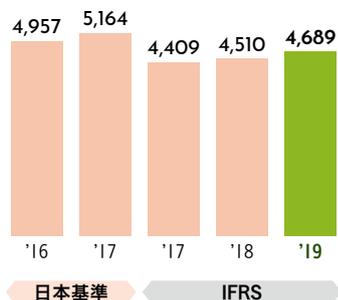
米州・中国・アジア・欧州

1970年のアメリカ進出以来、日清食品グループは、アメリカやメキシコ、ブラジルなどの米州地域をはじめ、中国地域、シンガポール、インド、タイ、インドネシアなどのアジア地域、ハンガリーやドイツなどの欧州地域に事業を拡大し、現地での生産・販売を基本にビジネスを展開しています。2016年からは、「カップヌードル」のグローバル化を推進し、各国で共通フレーバー(シーフードヌードル)の普及を図っています。

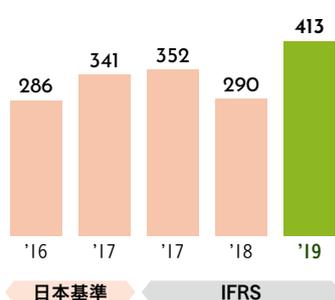


データ集

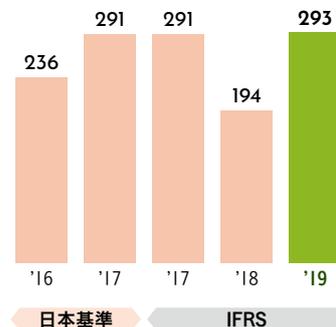
■ 売上高/売上収益(億円)



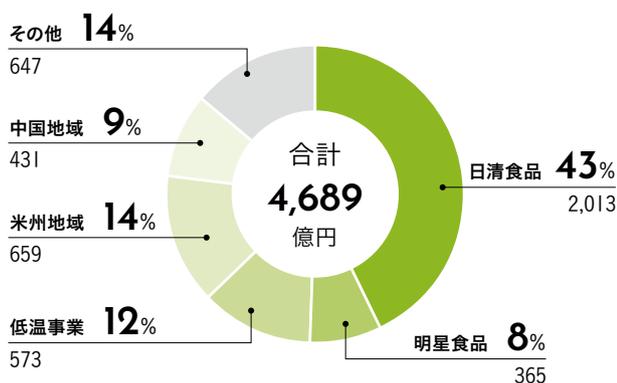
■ 営業利益(億円)



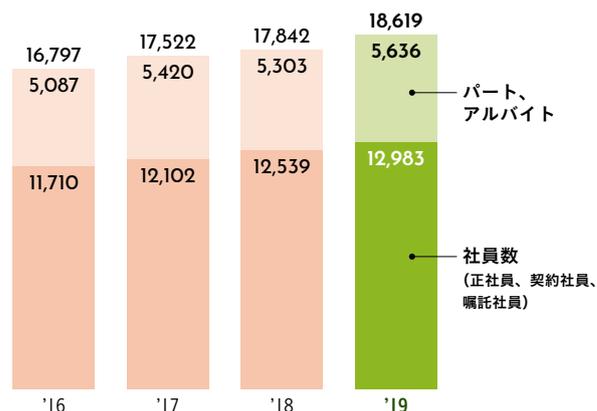
■ 親会社株主に帰属する当期純利益/親会社の所有者に帰属する当期利益(億円)



■ 2019年度のセグメント別売上収益(IFRS)構成比(億円)



■ 従業員数(人)



2020年度目標と2019年度の実績

I 中期経営計画2020

	KPI(IFRS)	2020年度目標	2019年度実績
本業で稼ぐ力	売上収益	4,860億円	4,689億円
	営業利益	435億円	413億円
資本市場価値	純利益※1	305億円	293億円
	ROE	9%	9%
	調整後EPS※2	281円	278円

※1 IFRSにおける「親会社の所有者に帰属する当期利益」

※2 (営業利益±その他収益・費用－税金費用－非支配持分に帰属する当期利益)÷期中平均発行済株式数(自己株式控除後)

II 2020年までに達成すべき中期環境目標

	2020年度目標	2019年度実績
事業活動に伴う温室効果ガス(CO ₂)排出量※1	30%削減	26.2%削減
再資源化率	99.5%以上を維持	99.6%
グループ製造工場のISO14001認証取得率※2	100%	71.8%
環境管理責任者の資質向上(eco検定の合格者)※3	100%	79.2%

※1 国内対象事業所における原単位(製品重量当たり)での削減目標(2005年度比)

※2 国内外の対象工場(目標設定時)における取得率

※3 環境プランナーなどの代替資格を設定

 **日清食品ホールディングス**

お問い合わせ先

日清食品ホールディングス株式会社 広報部 CSR推進室

TEL: (03)6233-6840

